



## 放課後等デイサービスの基本的な姿勢って？

### A. 子どもの最善の利益と人権に配慮した支援と、場所なの。



子どもの最善の利益を考えつつ、人権に配慮した支援を行うことが求められているの。

あっという間に大きくなっていく小学校の子どもたちや、うまく自分のことを表現するのが苦手な子ども、特別支援学校の子どもたちが放課後等デイサービスにおける支援の対象になっています。

なので、子どもの発達過程や特性をきちんと理解しておくことが大切なのよ。

〇歳なんだから、という周囲が期待する年齢相応の行動というのがあります。社会的な活動への参加やコミュニケーション、運動能力なんかのことなんだけれど、そこに配慮が必要な子どもたちがいるのね。

とくにコミュニケーション面での配慮が必要な子どもがたくさんいるの。

そのために、「個別支援計画」を児童発達支援管理責任者さんが作成します。

ひとりひとりの状態に即した、支援の方向を決める計画書のことね。

そして、それをもとにして発達支援を行うのよ。

もっと大切なことは、放課後等デイサービスが子どもにとって安心できる場所である、ということなの。

そこに行けば自分の居場所がある、と確信できると安心でしょ？

頑張らなくても素直な自分で居られる場所、ということが大切なことなの。

そのためには、子どもであっても一人の人間として尊重されなければいけないわ。

年齢に関係なく、対等に接してもらえるとということも大切なことなのよ。

そのままの自分を尊重してもらえるところ、というのは素敵ではないかしら？

教えられる側、教える側、という区別を感じさせない場所でもありたいわね。

そういう区別は確かにあるんだけど、それを感じることがない場所。

年の離れた友人、という感覚に近いのかもしれないわ。

放課後等デイサービスは、そういう場所でありたいものなの。

[《MENU》](#)

[《青少年活動センターって？](#)

[個別支援計画って？》](#)

2020-11-24 掲載